

沖縄美ら海水族館 海のふしぎ 発見シート

上級編 解説

問1. 正解 C (卵をうむ)

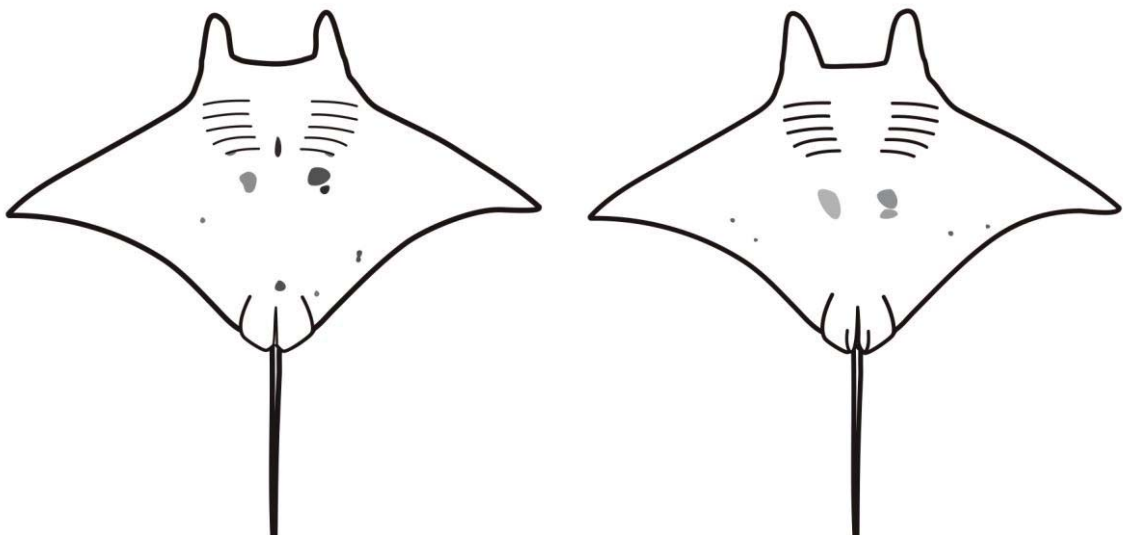
「サンゴの海」水槽に展示されている枝のような形のサンゴの多くは、ミドリイシの仲間です。このサンゴは、沖縄では初夏の大潮の夜、卵と精子のつまったカプセル（バンドル）を一斉に海に放つことが知られています。カプセルがはじけて受精した卵は幼生（プラヌラ）となり、やがて岩に付着して1個のポリプになります。ポリプは分裂してどんどん数を増やし、大きなサンゴに成長します。

問2. 正解 C (5コ)

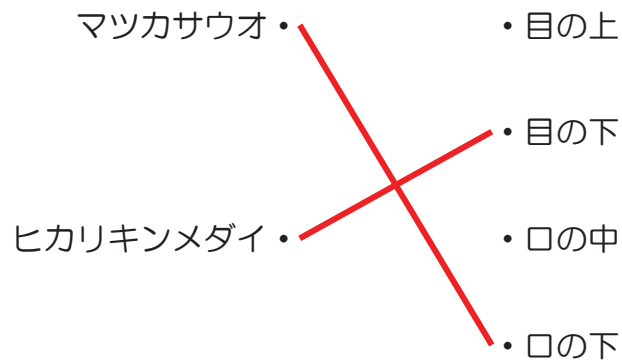
サメの場合、エラ孔は5～7対の裂け目として体表に開いています。エラ孔の数はほとんどが5対ですが、一部で6対（カグラザメ等）、7対（エドアブラザメ等）の種類もいます。水槽を泳いでいるサメ類のエラ孔の数は、体の片側に5コです。

問3. 正解 A (お腹の模様)

ナンヨウマンタのお腹には黒い斑紋があり、その斑紋が一匹一匹異なります。当館で飼育されている複数のマンタも、一見すると見分けが付きませんが、お腹の模様をよく見ると、黒い斑紋が個体によって異なっているのが分かります。



問4. 正解



マツカサウオやヒカリキンメダイは光を出す発光器を持っています。発光器は共生している発光バクテリアの働きで光ります。マツカサウオは口の下（下アゴ）の先端部に発光器がついていて、弱い光を出します。ヒカリキンメダイは目の下の発光器を出したり隠したりすることで光を点滅させます。これらの魚をはじめとする発光生物は自ら光を出す事で、エサを集めたり、敵から身を守ったり、仲間に信号を送ったりしています。

問5. 正解 お・き・な・わ

沖縄美ら海水族館に展示されている生き物は、全て沖縄周辺海域に生息している生き物です。沖縄の海の生き物をサンゴ礁～黒潮～深海の順に旅をする形で紹介しています。